

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（2年）

今年度の分析

全体の概要			
国語	全体の正答率は県平均とほぼ同じとなっている。しかし、領域別に見ると他の領域は県平均とほぼ同じであったが、「書くこと」に関してはやや下回っており、一年次に比べ「書くこと」に関する苦手意識を持つ生徒が増えてきているようである。		
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
聞話 くす	「話すこと・聞くこと」に関しては、正答率では県平均とほぼ同じとなっている。昨年度は県平均を下回っていたので、この点では、改善が見られているようである。	→	「話すこと・聞くこと」に関する活動を授業やテスト等でも多く取り入れ、「話の内容を的確に聞き取ること」や「自分の意見をわかりやすく相手に話すこと」に関する力の育成に取り組みせたい。
書 く	「書くこと」に関しては、正答率が県平均よりやや下回っている。昨年度はほぼ同じ正答率だったので、やや「書くこと」に関し苦手意識を持つ生徒が増えてきているようである。	→	学習状況調査の設問の中でも、書くために少し工夫が必要な文章の書き直しの設問の正答率が低い傾向にある。単純に書くだけでなく、読むことや言語の知識を踏まえて文章を書くことの練習に取り組みせたい。
読 む	「読むこと」に関しては、正答率では県平均とほぼ同じとなっている。昨年度は県平均を下回っていたので、この点では、「読むこと」に関する苦手意識に改善が見られているようである。	→	「読むこと」に関しては、特に長い文章を根気強く読む練習を取り入れ、読むことへの慣れを身につけさせたい。また、読書の習慣づけを心がけ、読むことの楽しさを実感させたい。
言語 事項	「言語事項」に関しては、正答率では県平均とほぼ同じとなっている。漢字についても「読み・書き」ともに県平均とほぼ同じとなっている。	→	引き続き、毎日の漢字の課題と小テストを実施して、漢字の読み・書きの力を身につけさせたい。

今年度の分析

全体の概要			
数学	全体の正答率は県平均とほぼ同じである。到達度分布を見てみると「要努力」の生徒の割合が高くなっている。領域別では「資料の活用」の領域で県平均を上回っており、「数と式」はやや下回り、「図形」「関数」分野ではほぼ同じである。意識調査においては「数学の勉強は好き」と答えた生徒が多い。		
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
知識・ 理解	県平均とほぼ同じである。昨年の課題であった「用語」についての知識・理解には向上が見られた。特に「資料の活用」に関しては高い正答率である。	→	昨年に引き続き、授業の中で数学用語や数学的な表現を使って説明する場面を多くする。
技能	県平均と比べるとやや下回る。基本的な計算技能は身につけているが、カッコや分数をふくむ方程式や小数の計算を苦手とする生徒の割合が多く、無解答率が高くなる。	→	学習時は理解ができている内容が多いので、定着を図るために課題などを利用してくり返し学習をできるようにする。
考え方	県平均とほぼ同じ正答率である。どの問題も「おおむね達成」の域には達しているが、言葉で説明する問の無解答率が高い。解答を見てみても『理解』が『表現』まで至っていないものが多かった。	→	自分の考えを表現する機会を増やす。「伝える」「聞く」の活動だけにとどまらず、書いて表現する場面も設定することによって、「書く」ことへの抵抗感をなくしていく。

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（2年）

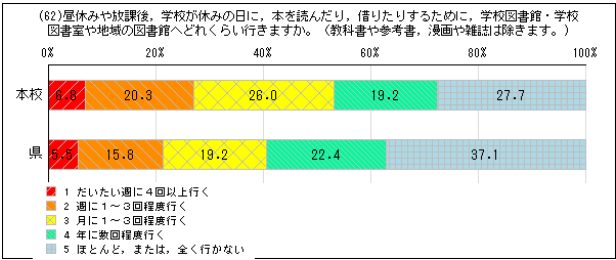
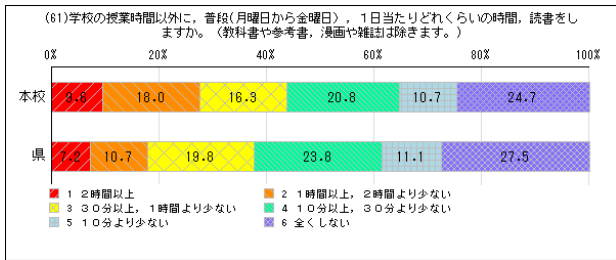
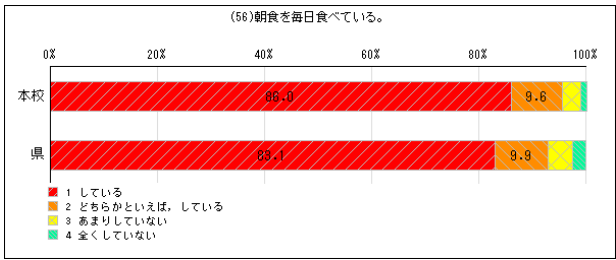
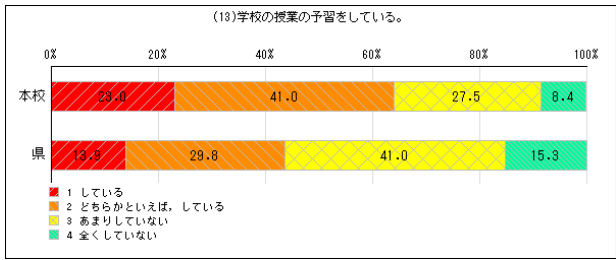
分析と改善に向けた具体的取り組み事項

自学ノートの取り組みや、各教科の課題などで、予習的な学習にはよく取り組んでいると思われる。

市全体の呼びかけ等もあり、朝食を毎日食べてくる生徒が多い。

読書は好きで、時間があれば読書をしている生徒が多い。また、地域の図書館設備が充実しており、市民図書館へ休日行っている生徒も多い。

【 数値が特に高かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

学校全体に落ち着きがない状況もあり、楽な楽しいことに流されやすい風潮が生徒の一部に見られる。

基本的に家庭での学習時間が少なく、予習的な課題には取り組むが、自主的に復習に取り組む生徒が少ないようである。

苦手な教科を克服しようとして、自ら計画的に取り組む姿勢は弱く、課題をやることのみで家庭学習が終わっているようである。

自学ノートの取り組みをさらに進め、各教科の課題とともに復習的な課題を増やしていきたい。

家庭学習についても、保護者との連携、協力ができる方法を考えていく必要がある。

【 数値が特に低かった項目 】

